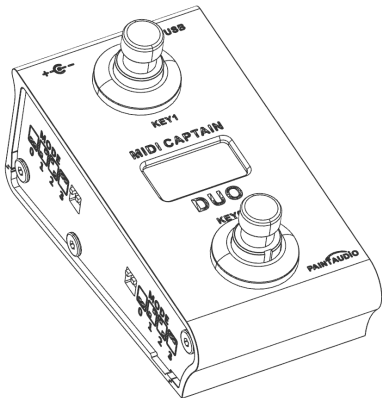
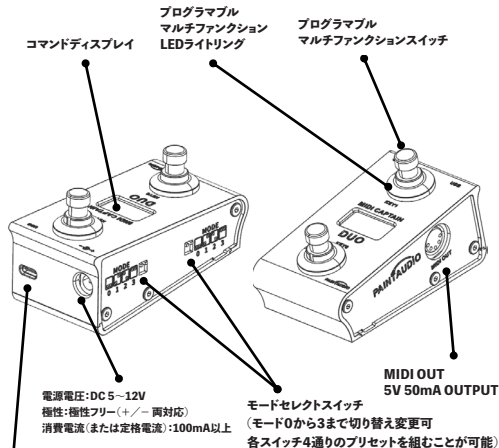


MIDI Captain **DUO**

With Super Mode MIDI Switches Configuration



Interfaces

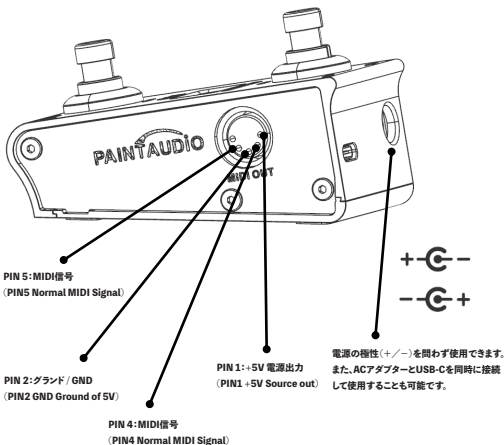


USB-MIDI通信および
任意での電源供給に対応しています。

MIDI Captain DUO

PAINTAUDIO

Special Reminder



MIDI CAPTAIN NANO4のMIDI IN端子は1番ピン(PIN 1)から5V給電出力を行う仕様のため、他機器との電源衝突による故障を防ぐには信号線(PIN 4/5)のみを結線した付属のMIDIケーブルを使用するのが最も安全です。(※Quad CortexやHX Stomp、BOSSなど一般的な現行エフェクターであれば、市販のMIDIケーブルを繋いでも故障する心配はほぼありません)

MIDI Captain DUO

PAINTAUDIO

Firmware & Function Brief

本機には、Super Modeと呼ばれる最新のMIDI Captainシリーズのファームウェアプログラムが搭載されています。電源を接続するとき、または本機の電源を入れるときにkey0フットスイッチ（MIDI Captain ONEの場合、フットスイッチは1つしかないためkey0）を押し続けることで、USBモードに入り、すべてのフットスイッチの機能をカスタマイズすることができます。

Super Modeは、press、short release、long press、long releaseの4つのキー状態をサポートしており、それぞれ異なるコマンドセットを実行します。コマンドは、1つのコマンドでも複数のコマンドでも構いません。各動作に設定できるコマンド数に制限はなく、これは以前のMIDI CaptainファームウェアのNormal modeやGeek modeでは実現できなかったことです。

また、1つのフットスイッチをループ内で複数回トリガーできる機能も作成しました。「keytimes」パラメータで複数回を設定することにより、フットスイッチを複数回押したときに異なる動作をさせることができます。たとえば、keytimes = 2の場合、フットスイッチに一般的なCCトグルコマンドを実行させたり、2つのPCコマンドを切り替えたりすることができます。keytimes = 5の場合、順番にトリガーされる5つの異なるコマンドセットのシーケンスを作成できます。最大値はkeytimes 9です。

フットスイッチの4つのキー状態と複数回のトリガーイベントを組み合わせることで設定することにより、MIDIフットコントローラーでこれまでにない豊富な機能の組み合わせを実現できます。

Configuration Language Brief

keytimes = [x]

ここの「x」はキーが複数回押された時の異なる信号動作の数を表します。

ledmode = [select]

normal または tap に設定することが可能。この設定は、フットスイッチのLED表示を指定するために使用します。selectモードでは、現在選択されているスイッチに対応するLEDのみが常時点灯します。Normalは設定された色を通常通り表示することを意味し、tapは点滅動作を意味します。

ledcolorX = [0xff0000][0x00ff00][0x0000ff]

ここでの「X」は、キーが押された回数を表し、各値はX回目にキーが押されたときのLEDライトの色を表します。リング上の各LEDセットは個別に設定できます。

short_dwX, short_upX, longX, long_upX

X回目の短押し、X回目の短押し後に離す、長押し、長押し後に離す、のそれぞれ4つの動作状態に対応します。

short_up1 = [1][PC][3][-][16][CC][127][0][4][NT][60][127]

イコール記号の後のコマンドは、コマンドのセットを表します。4つのパラメータごとに1つのコマンドを構成し、複数のコマンドを連続して記述できます。最初のパラメータはMIDIチャンネル値、2番目のパラメータはMIDIコマンドタイプ（PC、CC、またはNT - note）、3番目と4番目のパラメータは対応するコマンドIDと値です。

より詳しい設定手順は次のページから解説致します。

本製品のMIDI設定について

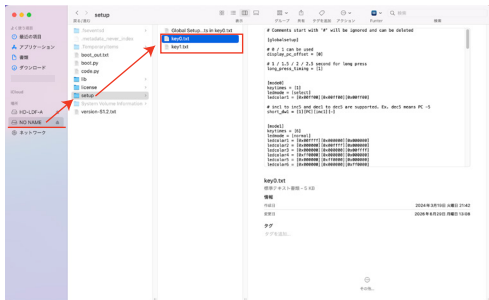
本製品は、プリセット(初期設定)をあらかじめ保持していないフルカスタム専用のMIDIスイッチャーです。お使いのマルチエフェクターやギタープロセッサの仕様に合わせてMIDI設定を行い、本体に書き込んでからご使用ください。

【設定手順】

1. スイッチ「KEY0」を押しながら、付属のUSB-C to Aケーブルでパソコン(Windows / Mac)と接続すると本体が「セットアップモード」で起動します。
2. パソコンの画面上に本製品のドライバアイコン("NO NAME")が表示されます。
3. ドライブ内の「supersetup」フォルダを開き、編集したいテキストデータ(key0.txt)、(key1.txt)を編集して上書き保存します。

テキストファイルを編集する前に必ずコピーしてバックアップを取ってください。編集がわからなくなった、動作しなくなった等、トラブルが起きた場合は、バックアップデータを上書きすると購入時の状態に戻ります。

4. 上書き保存して設定が完了したらマウスカーソルをアイコンに合わせて右クリック→「"NO NAME"を取り出す」をクリックしてからUSBケーブルを外し、再接続するとご使用頂けます。本製品は電源ボタンがないのでUSB接続で起動します。



下記の設定コードはメーカーによる設定用のサンプルコード(見本)が購入時に記載されています。このコードの書き方(法則)を参考に、編集やコピー＆ペーストを行います。ここではサンプルコードの意味を簡潔に説明します。

```
[mode0]
keytimes = [1]
ledmode = [select]
ledcolor1 = [0x00ff00][0x00ff00][0x00ff00]
short_dw1 = [1][PC][inc1][-]
```

このコード設定はモード「0」の状態では**PC(プログラムチェンジ)**の信号を1から順番に信号を送る設定です。

```
[mode2]
keytimes = [1]
ledmode = [tap]
ledcolor1 = [0xff0000][0xff0000][0xff0000]
short_dw1 = [3][CC][80][127]
```

モード「2」の状態では、スイッチを踏んで離すたびに、**チャンネル3 / CC #80 / Value. 127** のMIDI信号を1回送信します。曲のテンポに合わせて2回以上踏むことで、受け取り側のエフェクター側がテンポ(BPM)を認識・変更します。

```
[mode3]
keytimes = [1]
ledmode = [select]
ledcolor1 = [0xff0000][0xff0000][0xff0000]
```

```
short_dw1 = [press][HID][-][s][delay][HID][-][40][press][HID][-][d][delay][HID][-][40][release][HID][-][s][delay][HID][-][40][release][HID][-][d][delay][HID][-][40][press][HID][-][k][delay][HID][-][40][release][HID][-][k]
# short_dw1 = [send][HID][-][s][delay][HID][-][1000][send][HID][-][d]
```

モード「3」の状態ではスイッチを押すと、MIDI信号の代わりにパソコンのキーボード操作(HIDキーボード信号)をあらかじめ決められた順序とタイミング(ミリ秒単位の遅延)で自動送信します。このキーコードの場合は「s」→「d」→「s」→「d」→「k」の順番に自動送信します。主にDAWソフト(録音・再生ソフト)のショートカット操作やアプリのキーマクロ機能として活用する際に使用します。

がついている行は「コメント(無効化された説明文・書き方の見本)」です。設定を有効にしたい場合は# を消して記述してください。

動作の流れ:s キーを押す → 40ミリ秒待つ
d キーを押す → 40ミリ秒待つ
s キーを離す → 40ミリ秒待つ
d キーを離す → 40ミリ秒待つ
k キーを押す → 40ミリ秒待つ → k キーを離す

[press][HID] や [release][HID] は、パソコンに対して「キーボードのキーを押す/離す」信号を送る命令です。

[delay][HID][-][40] は「次のキーを押すまでに40ミリ秒の空き時間を挟む」というタイマー設定です。

【HIDキーボード設定のワンポイント】

単体のキー(Spaceキーや各種文字キーなど)を1回押すだけのシンプルな設定であれば、[-][HID][-][Space]と簡潔に記述するだけで正しく動作します。

```
[mode1]
keytimes = [6]
ledmode = [normal]
ledcolor1 = [0x00ffff][0x000000][0x000000]
ledcolor2 = [0x000000][0x00ffff][0x000000]
ledcolor3 = [0x000000][0x000000][0x00ffff]
ledcolor4 = [0xff0000][0x000000][0x000000]
ledcolor5 = [0x000000][0xff0000][0x000000]
ledcolor6 = [0x000000][0x000000][0xff0000]
short_up1 = [1][PC][0][-]
short_up2 = [1][PC][1][-]
short_up3 = [1][PC][2][-]
short_up4 = [1][PC][3][-]
short_up5 = [1][PC][4][-]
short_up6 = [1][PC][5][-]
long1 = [1][PC][6][-]
long2 = [1][PC][7][-]
long3 = [1][PC][8][-]
long4 = [1][PC][9][-]
long5 = [1][PC][10][-]
long6 = [1][PC][11][-]
```

このコード設定はモード「1」の状態では短押しするとPC(プログラムチェンジ)No.を0から5まで順番に送信、長押しすると6から11まで順番に送信します。

本製品の信号は「短押し(down)」「短押し(up)」「長押し(down)」「長押し(up)」の4通りで送信手段があります。
ここでは記入例をご紹介します。

short_dw1 = [1][CC][15][127]

Channel No.

CC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.)のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「短押し(down)」すると**チャンネル1+CC#15+Value No.127**が送信可能。

short_up1 = [2][PC][15][-]

Channel No.

PC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.)のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「短押し(up)」すると**チャンネル2+PC#15**が送信可能。

long1 = [3][CC][30][0]

Channel No.

CC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.)のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「長押し(down)」すると**チャンネル3+CC#30+Value No.0**が送信可能。

long_up1 = [4][PC][60][-]

Channel No.

PC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.)のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「長押し(up)」すると**チャンネル4+PC#60**が送信可能。

1つのスイッチで順番に信号を送信したい場合の記入例

```
keytimes = [3]
```

keytimes = [x] (切り替え回数)

スイッチを押すたびに切り替わる動作の総数を設定します。

```
ledmode = [normal]
```

```
ledcolor1 = [0x00ffff][0x000000][0x000000]
```

```
ledcolor2 = [0x000000][0x00ffff][0x000000]
```

```
ledcolor3 = [0x000000][0x000000][0x00ffff]
```

```
short_dw1 = [1][CC][10][25]
```

```
short_dw2 = [1][PC][10][-]
```

```
short_dw3 = [1][CC][47][100]
```

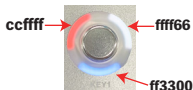
上記のコード入力の場合、スイッチを3回「短押し(down)」するとチャンネル1+CC#10+Value No.25、チャンネル1+PC#10、チャンネル1+CC#47+Value No.100、が順番に送信可能。

ledcolorについて

各スイッチに3箇所のLEDライトが点灯します。6桁のカラーコードを入力してカラー変更が可能です。
3色同じ色はもちろん、それぞれのLEDライトもカラー変更が可能です。

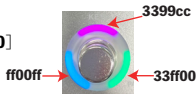
カラーコード入力例1(上側のスイッチ)

```
ledcolor1 = [0xccffff][0xffff66][0xff3300]
```



カラーコード入力例2(下側のスイッチ)

```
ledcolor1 = [0xff00ff][0x3399cc][0x33ff00]
```



1つのスイッチで順番にカラーを変更したい場合の記入例

keytimes = [3]

ledmode = [normal]

ledcolor1 = [0x00ffff][0x00ffff][0x00ffff]

ledcolor2 = [0x33cccc][0x33cccc][0x33cccc]

ledcolor3 = [0xff00ff][0x3399cc][0x33ff00]

short_dw1 = [1][PC][0][-]

short_dw2 = [1][PC][2][-]

short_dw3 = [1][PC][4][-]

スイッチを押す回数「short_dw1, short_dw2, short_dw3」に対応させて、「ledcolor1, ledcolor2, ledcolor3」の色を指定します。

ledcolor1 = [0x00ffff][0x00ffff][0x00ffff]

ledcolor2 = [0x33cccc][0x33cccc][0x33cccc]

ledcolor3 = [0xff00ff][0x3399cc][0x33ff00]



※下記のカラーコードは一例です。お好みの色に変更したい場合は、
Web等で「カラーコード (HEX)」を検索し、好きなコードを入力してください。

000000	330000	660000	990000	CC0000	FF0000
003300	333300	663300	993300	CC3300	FF3300
006600	336600	666600	996600	CC6600	FF6600
009900	339900	669900	999900	CC9900	FF9900
00CC00	33CC00	66CC00	99CC00	CCCC00	FFCC00
00FF00	33FF00	66FF00	99FF00	CCFF00	FFFF00
000033	330033	660033	990033	CC0033	FF0033
003333	333333	663333	993333	CC3333	FF3333
006633	336633	666633	996633	CC6633	FF6633
009933	339933	669933	999933	CC9933	FF9933
00CC33	33CC33	66CC33	99CC33	CCCC33	FFCC33
00FF33	33FF33	66FF33	99FF33	CCFF33	FFFF33
000066	330066	660066	990066	CC0066	FF0066
003366	333366	663366	993366	CC3366	FF3366
006666	336666	666666	996666	CC6666	FF6666
009966	339966	669966	999966	CC9966	FF9966
00CC66	33CC66	66CC66	99CC66	CCCC66	FFCC66
00FF66	33FF66	66FF66	99FF66	CCFF66	FFFF66
000099	330099	660099	990099	CC0099	FF0099
003399	333399	663399	993399	CC3399	FF3399
006699	336699	666699	996699	CC6699	FF6699
009999	339999	669999	999999	CC9999	FF9999
00CC99	33CC99	66CC99	99CC99	CCCC99	FFCC99
00FF99	33FF99	66FF99	99FF99	CCFF99	FFFF99
0000CC	3300CC	6600CC	9900CC	CC00CC	FF00CC

DTMソフトのトラックを再生したい場合のキーコード入力例

`short_dw1 = [-][HID][-][Space]`

↑
キーボードコマンドを送ります、という信号

↑
キーボード「SPACE」を指定

上記のコード入力の場合、「SPACE」キーボードの短押しを指示します。

コマンドキー、コントロールキーを使用しない場合はmacOS, windowsOSどちらもご使用可能です。

DTM、宅録等で使用されるショートカットキーをスイッチで操作することも可能です。

ショートカットキーを設定する場合のキーコードの入力例をご紹介します。

`short_dw1 = [-][HID][Windows][A]`

↑
キーボードコマンドを送ります、という信号

↑
Command キー

↑
キーボード「A」を指定

上記のコード入力の場合、「command」+「A」、**macOS用全体選択ショートカットキー**をスイッチで操作可能です。

MacOS側が「Windowsキーの信号=Commandキー」と自動的に変換して認識するため[Cmd]は非対応です。

`short_dw1 = [-][HID][Ctrl][A]`

↑
短押しを実行

↑
キーボードコマンドを送ります、という信号

↑
コントロールキー

↑
キーボード「A」を指定

上記のコード入力の場合、「Ctrl」+「A」、**WindowsOS用全体選択ショートカットキー**をスイッチで操作可能です。

MacとWindowsで「全選択」に使う基本キーがCommand(=Windowsキーの信号)かControlかで異なるため、Windowsで全選択をさせたい時は[Ctrl]をご使用ください。

よくある質問

すべてのマルチエフェクター、ギタープロセッサに対応していますか？

いえ、全てではありません。接続する本体側のCC受信が限定されている場合もございます。本体側のMIDI互換に関しましては各メーカーのマニュアルに記載されているのでそちらをご確認、もしくはメーカーにお問い合わせることを推奨します。

すべてのDAWに対応していますか？

いえ、全てではありません。たとえばFender Studio Pro8は外部スイッチャーからCC#を受信すること自体は可能ですが、PLAY、STOP、◀ ◀、など操作はMIDI操作に対応しておりません。反対にABLETON LIVE、LOGIC PROはCC#に柔軟に対応しております。このようにDAWによって仕様が異なるのでDAWのメーカーにお問い合わせください。

macで設定を行ってますが、読み込みの認識が遅かったり、上書き保存の時に時間がかかったり、またフリーズになりそうな状態にもなりますがバグですか？

Mシリーズmacとの互換が完全ではないため、認識や動作が遅い場合がございます。

WindowsOSは比較的ハードウェアとの相性が良いのでWindowsPCでのご使用を推奨します。

DAW操作のショートカットキーのコードを入力しましたがUSB-C接続してドライバーのインストールやアプリ側で何か設定が必要ですか？

いいえ、ショートカットキーとしてご使用する場合は、MIDI信号を送信しないのでDAW側では特に設定する必要はありません、本体のモードをノブで設定してUSB-C接続して頂ければそのままご使用可能です。

設定コード以外にも「#」が付いた英文が表記されていますがこのコードは何ですか？

#がついている行は「コメント(無効化された説明文・書き方の見本)」です。設定を有効にしたい場合は#を消して記述してください。

編集ミスでうまく動作しない上にバックアップデータを紛失してしまいました。

弊社メールアドレス「k-garage@kikutani.co.jp」担当:保木口宛にご連絡頂ければバックアップデータをお送り致します。